

ろうさい病院つうしん

病院情報誌 第12号 平成16年11月30日発行

発行所:中部労災病院

〒455-8530

名古屋市港区港明1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>

ストレス時代を生き抜くために 心療内科とは？



心療内科部長 芦原 睦

心でおきる身体の病即ち『心身症』や心理的影響の強い『ストレス病』を診断し、治療する診療科です。身体の具合が悪いのに、医師に『どこも悪くない』と言われてきた方たちの受診もお勧めします。特に職場におけるストレスの問題についてもお相談に応じます。

精神科(神経科)との違いは

『精神科』は、脳や心の病気を診る診療科で、精神保健福祉法にもとづき“精神科医”が担当しています。精神科にかかる方は必ずしも精神病ではありませんが、統合失調症、そううつ病、抑うつ神経症、心気症、アルコールや薬物の中毒、自殺未遂、自傷他害の恐れのある方は、精神科の領域です。

一方、『心療内科』は身体の不調がある『ストレス病』を診るところです。担当医は“内科医”ですので、身体の調子は悪くなく、心の問題だけのときには精神科に行かれる方が良いでしょう。

代表的な病気には

自律神経失調症、更年期障害、不眠症、肩こり、めまい、頭痛、痙性斜頸、書痙、むちうち症、咽喉頭異常感症、気管支喘息、過換気症候群、高血圧症、低血圧症、パニック障害、過敏性腸症候群、胃・十二指腸潰瘍、摂食障害、慢性の痛み(リウマチ等)、円形脱毛症等があります。また身体の症状が中心の“軽いうつ状態”を診ることもあります。

尚、火曜日は部長外来で、リウマチ・膠原病の診療を行っています。

外来診療は予約制ですので、新患の方はご予約をお願いします。

専用ダイヤル 052-652-5749
(平日15時~17時)

診療内科

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
診察1	芦原 睦 部長	芦原 睦 部長	石川 浩二 医師	芦原 睦 部長	交代制
診察2	平本 哲哉 医師	平本 哲哉 医師	小幡 哲嗣 医師	小幡 哲嗣 医師	平本 哲哉 医師

精神神経科について

精神科副部長 小森 薫



当院では、精神科と心療内科が独立しており、それぞれが各科の特徴を生かしつつ診療をおこなっています。当院の様な診療形態は、愛知県全体を見回しても殆どありません。

大きな特徴として特記すべきことですが、それぞれの科の違いや依頼時の科の選択について悩まれる事も多いと思います。すでに、芦原心療内科部長が種々の機会に述べてみえることとも重複しますが、精神科の紹介記事を執筆する機会に恵まれましたのでこの場をお借りして記させていただきます。

①心療内科との違い

心療内科は「心が原因で起きる身体の病気」(心身症)を診る科です。言い換えるなら、ストレスを始めとする心理的負荷が、種々の形で影響し身体に症状を来した「ストレス病」を、診断治療することが目的です。身体疾患に精通していなければなりませんから、診療に従事するのは「内科医」である「心療内科医」があたることになります。

一方、精神科は「脳のなかで起こっている精神的な異常」を診る科です。司令塔である脳機能が脳内の神経伝達物質の調整障害により、本来の機能を発揮出来なくなり、混乱を来している状態を薬物療法、精神療法を用いて再構成しようとするのが目的です。脳内の神経伝達物

質と精神との関連に詳しい「精神科医」が治療にあたることになります。精神科の代表的な疾患には、統合失調症、躁うつ病を始めとする感情障害、痴呆疾患の精神症状の合併例、せん妄などがあります。

②よく分からない診断名？

他科の先生からよく伺うお話のなかに「精神科の診断名は医者ごとに言うことが違ってよく分からない」というものがあります。これはかつての精神科が精神病理主体だった時代の弊害がまだ残っているためです。現在の精神科医は診断のための共通言語として、米国の精神神経学会が作製した診断基準である「DSM-5(4)」を用いています。またうつ病や統合失調症の治療ガイドラインもあり、かつての精神科医の様に「青い鳥症候群」などと診断し、周囲を煙に巻くような、主観的判断に偏らない診断治療を行うようつとめています。

③それでも高い敷居

精神科の敷居が以前より多少低くなったとはいえ、我が国の現況は依然として米国のそれとは大きな隔たりがあります。このため当科に患者さんをご紹介いただく場合は、診療を受けることの本人やご家族の同意を取っていただければ幸いです。

精神科

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
新患・再来	小森 薫 副部長	小森 薫 副部長		小森 薫 副部長	小森 薫 副部長

中部労災病院 女性総合外来のご紹介

中部労災病院女性総合外来代表 上條 美樹子



中部労災病院女性総合外来は平成13年2月、女性医師による女性のための総合外来として開設されています。性差医学の確立された欧米と異なり、本邦での女性外来は性差医療の窓口として第1歩を踏み出したばかりです。従って、女性外来の目的や形態も各施設様々なのですが、当院では女性が受診しやすい、敷居の低い総合外来と女性外来を位置づけています。東海地方では初めての開設であり、どのような患者さんが受診されるのか、ニーズがあるかどうかとも予想のつかないスタートでした。結果的には平成16年10月現在でのべ2,413人（うち新患1,469人）に受診していただき、予想以上の反響にスタッフ一同驚いている次第です。当院の女性外来はどのような主訴で受診されてもかまいません。実際、婦人科への受診を羞恥心などでためらう若い女性の受診相談、自分を更年期障害と思いこんだ熟年女性、高齢者といわれる年齢になっても男性医師には相談しにくい方など受診者層は様々です。

女性外来というと月経異常と不定愁訴というイメージが先行しているかもしれませんが、当院では内分泌疾患（下垂体腫瘍や内分泌腺腫）、神経疾患（パーキンソン病や初老期痴呆、末梢神経障害など）の診断率が高く、内科医による女性外来が総合診療の役割を果たしています。また、放射線科、皮膚科、形成外科、心療内科の女性医師・スタッフの連携により専門治療に速やかにつながるシステムになっています。専門医へのご紹介にあたっては、なぜ受診しなければいけないかを説明し患者さんに納得して受診していただきます。

オーダーメイド医療の出発点としてこれからも女性外来を利用していただければと考えています。

● 中部労災病院女性総合外来 ●

毎週月・水 9時から13時
原則予約制（電話予約可）

TEL 052-652-5511 <内線：251>

担当医師専門分野：神経内科、内分泌代謝糖尿病内科、消化器科、腎臓内科、呼吸器科専門女性医師5名

女性総合外来

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
新患・再来	当番制		上條 美樹子 副部長		

連携室だより

「平成16年度 病病・病診連携サービス実態調査」について

平成16年9月に、紹介件数の多い医療機関（上位67件）に「平成16年度 病病・病診連携サービス実態調査」を実施させていただきました。各労災病院を主催とし、同じ質問項目で調査をさせていただくことで、労災病院のあり方及びニーズを全国的に把握しようというものでした。

急なお願いで申し訳ありませんでしたが、多数ご回答いただいたことに大変感謝しております。回答項目も非常に多く、さぞお手数だったかとは思いますが、貴重なご意見をもとに地域の為の病院を目指していきますので今後ともよろしくお願い申し上げます。

なお、調査結果や業務改善策等につきましては、追ってお知らせする予定でございます。

セミナーの開催について

今年度の病診連携セミナー及び懇談会は下記のとおり行いました。

開催日時 平成16年12月3日（金）

開催場所 中部労災病院 桜盟館

開催時間 14：00～15：30（14：00～15：00 セミナー、15：00～15：30 懇談会）

演 題 静脈疾患（下肢静脈瘤深部静脈血栓症）とリンパ浮腫に対する現状と展望

演 者 岩田 博英（外科副部長）

開業医さまからの声

救急患者さんをスムーズに救急外来へお通しできないか、という要望を度々ちょうだいしております。その先駆けとして救急外来の直通電話及びFAXを平成16年7月に設置いたしました。そして9月には救急対策委員会でも検討し、院内の連絡方法について再度見直しを図り、救急患者搬送の連絡を受けた際に医事課への連絡を徹底することとなりました。患者さんが当院に着かれた際、迷うことなく救急外来へお進みいただくことが大切かと思っております。先生方からも、患者さんが病院に着かれたら「救急患者」である旨を伝えていただくよう一言添えていただけると、なお迅速に対応できるかと思っております。